

## 【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

国際的な視野を持ち、現代の課題を共有し、東アジア共通の伝統的教養や地域の文化に精通した行政、医療、環境、生産などの多分野にわたって三国の協業をリードできる知的リーダーを育成する。

## 【構想の概要】

岡山大学、吉林大学、成均館大学校が、アジア共通の価値観形成と次世代の中核的人材育成を目指し、深い伝統的な教養をもったアジアクラット(アジアの共通善に資する地域行政、民間組織の指導者)、地域医療をリードする医療人、三国の協業をリードできる企業中堅幹部候補等の輩出を目指す。同時に、東アジアの共通教育システムの構築を目指す。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈三国教員が協同で編纂した共通教科書〉

### ○ 共通善教育の深化と発展的人材育成

3校の2年以上にわたる研究会の成果として集大成した、共通善を柱とした科目群を構築。体系的、分野横断的なマトリックスを完成。共通善共通教科書の出版・利用促進。

### ○ 実験教室等の充実と単位化

共通善多言語セミナー、キャンパスアジア総合演習、サマースクール、短期語学研修、中韓ワークショップなどの内容を充実し、これら共通善教育担当教員の独自の取り組みを単位化。

### ○ 理系学生も交流できるきめ細かなプログラムづくり

人文・社会科学学生向けのメニューに並んで、自然系学生のためのワークショップ、医歯薬系学生のためのナノ・バイオコースなど、あらゆる分野の学生が国際交流できる環境を構築。さらに、文理融合型のプログラムを実施。

〈若手医師トレーニングプログラム〉

## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

### ○ 東アジア型グローバル教養教育システムの確立

現地語学習の強化をベースとした多言語セミナー、サマースクール、中韓ワークショップ、まちなかキャンパス、異文化理解講義、ナノバイオコース、自然系ワークショップなど、PBL・CBL (Community Based Learning) を基礎とした授業群を「東アジア型グローバル教養教育システム」として体系化し、教育モデルづくりをさらに一歩前進させた。

### ○ 国際共同大学院設立に向けた準備

社会科学系、教育系、自然科学系、医歯薬系におけるダブル・ディグリーを締結し、ジョイント・ディグリーの交渉を進展させ、また共同プログラムを積み重ねることによって、国際共同大学院設立に向けた基盤づくりを行った。

### ○ プログラムを持続的に発展させる枠組み作り

事業を安定的に継続させるため、事業拡大の方向性の明確化(グローバル教養教育の充実、教科書編纂の継続、ナノ・バイオコースの国際若手医師トレーニングプログラムへの進化)、岡山大学で取り組んできた他の国際交流事業との融合、に取り組んだ。



## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣 (延べ約 275名達成)

平成26年度までに、本学から協定校に長期 40名、SV 235名、計275名の院生・学部生を派遣した。

### ○ 外国人留学生の受入れ (延べ約 183名達成)

平成26年度までに、協定校から長期51名、SS 132名、計183名の院生・学部生を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0, K12	C6, K27	C37, K49	C21, K31	C34, K33
中国(C)での受入	J14, K4	J34, K15	J36, K7	J47, K7	J37, K15
韓国(K)での受入	J5, C5	J47, C5	J43, C17	J49, C10	J32, C5

注) H23~H26は実績、H27以降は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 日本人留学生の送り出し

語学力アップのための派遣前後教育・地域と連携する短期プログラムの充実、派遣学生掘り起こしのための中韓ワークショップ実施、留学中履修した科目のスムーズな単位互換制度の整備、マンスリーレポート制度の導入やiPadによる遠隔教育指導に取り組んだ。

### ○ 中国人、韓国人留学生の受け入れ

キャンパスアジア科目の豊富化と体系化、キャンパスを超えた地域連携型ワークショップの実施、他大学CA学生との交流、チューターの配置、学生クラブのサポート、言語教育サポートの強化、シェアハウスの充実、地域活動参加などによる留学生生活の充実に取り組んだ。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

### ○ HP等による情報発信と各種報告書による成果の普及

教育内容は、取り組みごとにレポートを作成し、印刷物およびホームページ(<http://campus-asia.ccsv.okayama-u.ac.jp/>)を利用して、情報を発信している。その他、Facebook (<https://www.facebook.com/CAMPUSAsia.okayama>) を通じて、学生活動、教育内容、制度構築等に関わる日々の活動をタイムリーに発信している。今年度、学生は独自に情報発信するCA学生新聞「ハレジア」を計画し、年4回発刊する予定。また、内部・外部評価に基づいた点検作業も継続的に進められ、事業実施内容の深化を図った。